

工期短縮に効果

意思疎通向上で理解深まる

新潟県内で取り組みが本格化している三方良しの公共事業改革で、昨年度施工した試行工事の検証結果がまとまった。検証が行われたのはいずれも県発注の6工事で、工程に織り込んでいるサバ（余裕）を削り取って作成した「サバ取り工程表」を使い進捗管理した結果、半数の工事で3-4割の工期短縮を実現。工事成績も85点以上が過半を占めるなど、一定の成果がみられた。また、社内や受発注者間のコミュニケーションが活性化されることによる効果についても評価が高かった。

新潟県内の三方良し試行結果

官民が知恵を出し合いサバ取り工程表を作成するWS



三方良しの取り組み試行結果をまとめたのは、県村上地域振興局管内の5工事と県津川地区振興事務所管内の1工事。護岸や橋梁、道路土工など、工種はさまざま。村上地域は同振興局地域整備部と県建設業協会村上支部が合同で検討チームを作り、支部会員の受注工事などで試行に臨んだ。津川地区も同振興事務所

と県建設業協会津川支部の青年部が合同で実施した研修会を踏まえ、支部会員企業の施工工事で実施した。取り組みでは最初に、工事の目標と工程について各社の現場代理人や経営幹部、技術部門の責任者のほか、協力会社の社員なども交えてアイデアや意見を出し合い、目標のすり合わせ（ODSCシートの作成）とサバ取り工程表を作り込んだ。津川地区の工事では、受発注者が協働で行った研修会のワークショップでの成果がベースとなった。各工事ともサバ取り工程表に基づき施工し、ほぼ工程通りに進捗した工事では40-30%台の工期短縮を実現できた。工事の出来栄えについては成績評定点が85点以上が4工事、ほか2工事も80点弱と、良好な結果となった。

各工事の現場関係者からは「工程を人に説明することで作業の組み立てがより明確化した」「多くの社員が意見を出し合い、会社としての一体感が得られた」「サバ取り工程表により、工程の遅れや原因を把握しやすくなった」「官民ひとつのチームという感じを持たれた」「監督員と同じ目的を持って施工でき、工事を成功させるという意欲が双方で高かった」「受発注者が工程表を共有し、発注者のスケジュールも入っているの受注側も段取りがつけやすい」「工程表作成は若手技術者育成の重要なツールになる」などの感想が出された。

検証結果について村上地域振興局では「今回の結果だけでは工期短縮と出来栄えの（「三方良し」の）効果を判断しがたいが、工程に対する意識が高まることは確かだ。工程表は作る人などによってさまざまだが、『サバを入れたい』という統一した考えで作れば作成者による違いもなくなり、共有できるようにする」と評価する。現場を軸にした社員のコミュニケーションの場ができることで「組織の活性化にもつながる」とメ

リットを指摘する。さらに今後の取り組み効果を上げていくために、「工期短縮のためには発注者が発注時期をより意識し、適正化していく必要がある」とするとともに、試行工事で近隣住民から好評を得た、現場での週間予定表の掲示を積極的に進めていくことなどを指摘している。津川地区振興事務所の担当者には「三方良しの取り組みは『仕事が増えるのでは』などと誤解されている面があるが、コミュニケーションをよくすることで仕事を『楽にする』という部分があることを理解してほしい。企業には工期短縮で少しでも利益を出してもらいたい」としている。これらの検証結果について県土木部監理課の阿部信隆政策企画員は「検証結果を見ると工期短縮の効果もあるが、監督員と現場代理人のつながりが強くなったことが何より大きいと思う。互いの状況をよく理解でき、それが効率的な工程管理を可能にし、結果的に県民によいものを早く提供できる」と総括している。

